

## 21年3月期経常益20億円目標

### グループ外取引を拡大



細谷社長

常利益15億円の収益規模。親会社に依属しない利益が約半分を占め、この部分に特に伸びしろを求める。新商材を探る企画開発本部も1月1日付で立ち上げた。

クラップの集荷・販売難、エレクトロニクス関連市場の減速が響いた。収益構成比率が最も高いのは、国内外でスクラップを集荷し製錬所や伸銅工場に納める原料リサイクル部門。

スクラップの約7割はJX金属グループ向け。伸銅品、硫酸、銅粉などのグループ製品の扱いも収益に寄与する。一方、グループ工場の操業変動に左右される。構築、商社として「グループ外から利益を持つてくる」(細谷社長)

原料リサイクル部門ではグループ工場への安定供給を維持しつつ、調達ルートの新規開拓やグループ以外の売り先の多角化を図る。金属加工部門では、JX金属が中国・東莞で運営するコイルセンターの営業活動を広げ

今期からの3カ年累計で経常利益48億円を計画。前3カ年の累計実績は45億円で、当初計画49億円に対して92%の達成度。16年3月期の金属相場下落、ス

クラップの集荷・販売難、エレクトロニクス関連市場の減速が響いた。収益構成比率が最も高いのは、国内外でスクラップを集荷し製錬所や伸銅工場に納める原料リサイクル部門。

スクラップの約7割はJX金属グループ向け。伸銅品、硫酸、銅粉などのグループ製品の扱いも収益に寄与する。一方、グループ工場の操業変動に左右される。構築、商社として「グループ外から利益を持つてくる」(細谷社長)

原料リサイクル部門ではグループ工場への安定供給を維持しつつ、調達ルートの新規開拓やグループ以外の売り先の多角化を図る。金属加工部門では、JX金属が中国・東莞で運営するコイルセンターの営業活動を広げ

JX金属100%出資の直系商社、JX金属商事(本社=東京都中央区、細谷一彦社長)は、2021年3月期に経常利益20億円を目指す。直近3カ年は売上高1000億円、経

える。

期待度の高いのは表面処理部門。親会社に収益を依属せず、JX金属商事唯一の製造部門である高槻工場(大阪府)を核とする。「口銭商売でなく利益率も比較的高い。拡販の一つの目玉にしたい」(細谷社長)。高付加価値の機能めっき液のラインアップを増やしていく。

るほか、14年にDOH0から譲り受けたタイのコイルセンターの増収なども目指す。本社の「企画部」を1月1日付で「企画開発本部」に格上げした。

専任の役員を1人置き、人員も5-6人に増員。約2000社の取引先からニーズとシーズを引き合わせ、新規商材を探る。